

アマダイ通信NO. 104

(Tile fish network letter)

2015年 元旦

知人・友人各位

東南に東京湾を望む我が家、冬場は朝焼けが美しい。太陽が昇り始めると、華やかな夜景が消え始め、黒いビル群の上に、深紅の空が濃く広がり、群青に立ち変わる。漆黒の海が紺に光ると、無機質のビル群の外壁が、青の空に昇った陽の光で、朱に映える。

眼の前にオリンピック選手村が建ち上がった時、この風景がどう変わるか？グローバル化とIT化が世界経済を大きく変え、格差の拡大が中間層を細らせ、亀裂を深め、世界を不安定にする。高く昇った陽の光に煌く目の前の海が、世界の海と繋がるように、70億の人々が一つに連なり、キラキラ輝く世界に近づく年となる様に、共に祈念したい。

◎突撃一番

従軍慰安婦問題が色々議論されていますが、若き●とその仲間達が東大の安田講堂を占拠した時、その名も突撃一番という Condom が大量に出て来ました。いつも機動隊の壁に一番に突撃しては警察に捕まり、駒場にいる間に7回も臭い飯を食べた●としては、とても身につまされるネーミングです。戦時中、敗色濃くなる中、学徒動員と称して、大学生までが戦地に送られた時、女性を買っても病気にならないように、大学が一人一人の学生に手渡したのでしょう。

今の学生以上に不器用な当時の学生が、言葉の通じない異国で簡単に恋が出来る訳はなく、不要な物を配る筈もないので、多分若い学生が突撃一番を手にして突撃出来る場所がしっかり用意されていたのでしょう。軍によって強制的に動員されたのか？貧しさ故に若い性を売らなければいけなかったのか？割合は別にして、両方あったと思いますが、その様な場を作らなければいけない、その様な場が出来る原因、貧困、許し難い格差と戦争をこの世界から無くすることが肝心です。

香港では学生諸君が、民主と自由を求め、市民を巻き込んで、独裁者中国共産党に、かつての●の様に突撃しました。北京の共産党政権は苦慮したでしょう。国際世論や経済の安定のため、天安門事件の時の様に、手荒なことは出来ない。といってチベットや新疆の独立問題もあるので、民主制を認める訳にも行かない。台湾も北京の言う一国二制度の中身が如何なるものか注視します。どっちに転んでも北京にとっていいことはない。

結局、民主を求める学生・市民に対し、生活とビジネスのためには秩序の回復が必要と主張する反対派をぶつけ、「法治」と秩序回復を理由に解散させる。天安門事件の時の様に、軍隊や戦車を繰り出しデモに突撃、引き殺すような手荒なことはせず、警察レベルで抑えられてほっとしているでしょう。だがいずれ、中国共産党の主張する「法」とは何なのか？法を制定、強制する共産党の権限は何に因るのか？問われるでしょう。翻って、投票率が半数割れ近くの52%の、今回の衆議員議員総選挙で三分の二の議員を獲得したからと、首相が再武装と集団的自衛権のための改憲に突撃すると公言する日本。「法治」と「民主主義」の中味が問われる国同士が「突撃」しあう事態は避けなければいけません。

◎大腸 30 センチと足一本

暮れ近くなると忘年会を兼ねた同窓会が続く。11月最後の日曜日、駒場の前身、第一高等学校の同窓会館を建て替えた、洒落たフランス料理店の入った建物で駒場の中国語クラスの同窓会。民青で駒場の自治委員長をした神部先輩、一年上、全共闘で緑色のヘルメット部隊を率いた丸山先輩も肺がんを患い呼吸が苦しそうだが、顔を出す。丸山氏と同期、警察学校の校長をし、眼光鋭かった島田先輩も、ハウスメーカーの顧問の名刺を持ちニコニコ。メーデー事件の思い出を語る大先輩も。日中間で、政治や経済、文化の橋渡し役として活躍する方も多し。元検事総長の但木弁護士とは、その節は何回もお世話になりましたと、名刺交換。三鷹の寮での活動と並びマルクス、レーニン、毛沢東と出会い、価値観のコペルニクス的転回をしたのがクラス活動。同窓会に幹事として参画することに。

その前日の夜は学内のアルバイト団体、東大学力増進会の同窓会。刀折れ、矢尽きた東大全共闘の若者達が、転進の前のしばしの安らぎと糧を得た場所。70年を丸ごと中野刑務所で未決囚として暮らした●も、出所して世話になる。私立高校を会場にした講習会で中学生を相手に勉強を教えたり、そのための教科書を作ったりして、急場を凌いだ。受験競争が激化、三鷹寮で二年後輩の永瀬君経営の東進スクールのように、企業化された塾が隆盛すると、アルバイト学生中心の学増は歴史的役目を終え、解散するが、育まれた者の多くは立派に学者や官僚、政治家、医者や弁護士、作家、起業家へと羽ばたいて行った。

金曜日の夕方は駒場で逮捕歴を競った社青同の伊藤君を、リンパ腺に転移、殆ど治癒する見込みなし(岩波新書「胃がんと大腸がん」)のステージⅢbの大腸がんを手術して12年近くの●が東大病院に見舞う。大学も卒業したのか?しないのか?定職についたことがあるのか?ないのか?この8年間、原因不明の骨折で入院を繰り返したが、片足を根元から切断、精密検査をして、1mmほどのがんを発見、微細ながんが静脈を突き抜け、静脈経由で全身を巡り、肺に転移の可能性ありということで、抗がん剤治療中。人生色々、道なき道を通り走り、大腸の30センチ、足の一本を失っても、お互い生きたいように生きて来た、わずか50年の人生をよくぞここまでと、笑みを交わす。

◎水道水はどこまで浄化すべきか?

ペットボトルに入れた東京や大阪の水道水が、東京ウォーターなどとして市販のミネラルウォーターと競って売られています。水道水は大きく飲用水と風呂水等の上水、トイレ等の雑用水に用途が分かれます。膜濾過までの高度処理をすれば、より安全で雑味の少ない、美味しい飲用水になりますが、トイレの水はお金をかけてそこまできれいにする必要がありますか?浄水器を使って更に浄化する家庭やペットボトルの水を買う人もいることを前提にすれば、コストをかけて膜濾過までする必要はないとも言えますし、逆に高度処理した水道水を給水すれば、浄水器もボトル水も要らず安上がりだとも言えます。

トイレを流す水と飲んだり、煮炊きに使う水と、用途に応じて給水すれば一番いいと言えますが、一般家庭では給水管は一本だけなので、用途に応じ、浄化の度合いを変えて受水は出来ません。全部混ざるので意味がありません。大きいビルでは上水管と雨水や厨房などの処理水をトイレ用に使用する中水管と分けて、二重配管します。経済的だし、環境に優しいのですが、初期コストが嵩み、回収するのに時間がかかります。

東京都の水道会計は黒字なので、コストをかけてもきれいに出来るということなのか?

都民がそこまできれいにする必要がないということであれば、高度処理は止めて、水道料金値下げという形で、都民に還元するのも一計です。東京の水道料金は全国的にも一番高いレベルですし、今回の大震災以来、電気・ガス代は上がりっぱなしなので、水道料金値下げは都民の懐に余裕を持たせ、消費支出が増えるのではないかと、舛添君、如何でしょう？

電源開発のリスクと費用で井戸を掘り、浄化設備を設け、きれいな水を安く供給、水源を二重化して事業継続性を高める、井水利用専用水道事業の営業を手伝って十年の●。3億円かけて富士通の半導体工場に井戸を掘り、膜濾過の設備を作り浄化、純水に近い水を安く供給、既存の浄水設備の負荷を軽くし、喜ばれている。子会社富山化学のインフルエンザ予防薬アビガンが、エボラ出血熱の治療薬としても使えると、一躍脚光を浴びた富士フィルム。古森会長が寮の先輩なので、グループの工場に電源開発の井水利用専用水道システムを導入しませんかと提案するが、既に利用済み。さすが、目のつけ所が違う。

これまで東大病院や京王プラザホテル、京都駅ビルなどへの導入を手伝って来たが、工場の方が水の使用量、設備投資金額が大きいので、食品、薬、半導体等の工場は導入効果が大きい。鉄道会社も車両の洗浄に大量の水を使う。油分を除くなどある程度浄化し、料金を払って下水道に流している汚水を、膜で濾過するなど高度処理して安く提供、再度洗浄に利用して貰えば、水道料金と下水道料金のダブルで削減、水環境に与える負荷も小さくし、効果が大。井水も利用すれば水道料金を更に削減、事業継続性も高まる。

◎職人不足と外国人研修生、機械化・プレハブ化

JR 各社の耐震改修、リニア新幹線建設に加え、安倍政権になってにわかに国土強靱化が叫ばれ公共工事が増加、オリンピックも決まり、それまでの不景気が嘘の様に工事量が増えた建設業界。嬉しい悲鳴と同時に人手不足、職人不足が叫ばれ、工事費、人件費が上昇、忙しい割に儲からないとの悲鳴も。そこで人手不足解消のために職人の養成が叫ばれ、海外からの研修生を増やし、日本滞在期間も3年から5年に伸ばすという。だが仕事が減った結果人手が余り、コンビニのアルバイトの方が割がいいと言われるくらいまで賃金が下がった結果の職人減であり、海外から人を入れてまで職人を増やし、賃金の上昇を抑えようというのでは解決策にはならない。ましてオリンピックが終わったら又、仕事が減らないかと心配するのは尚更だ。安定した仕事を確保し、生産性を高め、技能に見合った賃金を保障し、魅力ある職場にする必要がある。

毎週末千 m 泳ぐ月島区営プールの近く、地下鉄駅直結で清水建設が 56 階の超高層マンションを建設中で棟上げも近いが、20 階にもならない内に完売。晴海の我が家の近くでは、三鷹寮の大先輩の高島さんが会長、能代高校同期の小野寺君が副会長の住友不動産が、追いかける様に 53 階建てタワーマンションを 2 棟建設中。立ち上がるのを毎日見て通る。重い荷物はタワークレーンで吊り上げ、伸びるに連れ足場を組み上げ、職人さんが仕事の度に登り降りするのは大変だなと思っていたら、月島の現場では二面の外壁に横長のエレベーターを取付けて効率化を図り、足場は順繰りに取り外されていく。よくお世話になっている清水建設の営業部長に聞くと、タワークレーン 2 機にエレベーター 2 機が標準だと言う。住友不動産のタワーマンションはタワークレーン 3 機にエレベーター 2 機で、1 機には人専用の小型リフトが付属し、施工スピードが早い。これらの現場ではコンクリート製の柱や梁、外壁等の躯体は工場生産され、現場では組み立てるだけのプレハブ工法である。

職人不足、コスト高を背景に建設工事も機械化、プレハブ化が進み、生産性、安全性の向上、工期短縮が図られている。低賃金を維持、いつまでも人手と時間をかけて仕事をするのは、危険、汚い、きついという 3K 職場の汚名を返上出来ない。建設業界に足を踏み入れ、営業コンサルタントとして独立する切っ掛けになった、高層ビルのコンクリート製外壁を製造施工する高橋カーテンウォール、柱梁などのコンクリート製の駆体を製造施工する建研に続き、マンションの水廻りの配管を工場で製造、各戸の現場では水道や下水の元管、器機と繋ぐだけという、プレハブ配管を扱うオーテックの顧問にもなる。最近顧問になった SC ジャパンは、エッフェル塔の改修工事でも使われた、自在に曲げられる建設現場の昇降式足場や高速リフトをフィンランドから輸入するが、都市再生機構の高層マンションの改修工事や JR の橋脚の耐震補強工事の現場で昇降式足場を使って頂けることになった。同じく最近顧問になったトータル環境の、高井戸の杉並清掃工場を丸ごと覆い、騒音も埃も、ダイオキシンやアスベストも出さずに解体、基礎工事も終えてしまう、間口 80m、高さ 48m、長さ無限大の無柱空間を実現する大仮設テントを、JR のリニア新幹線や羽田新線、外郭環状道路の立坑の上に架け、SCJ の昇降式足場や高速リフトと組み合わせ、大深度地下トンネル工事を効率化することも提案している。建設工事の機械化、効率化、工期短縮、生産性と品質向上に貢献出来ると嬉しい。

◎ピンピンコロリ、健康寿命を伸ばすには？

11 月半ばの日曜日、月島のプールで千 m 泳いでから、故郷八峰町のふるさと会へ。市ヶ谷のアルカディアで昼から宴会。中学の同期生と二次会、更に夕方、池袋で別の飲み会。アルコール漬け。その日の日経新聞、健康寿命を伸ばすには脳と足と筋肉を鍛えないと！とあり、1 日 8 千歩、一週 5 万 6 千歩以上歩きましょうと。

前日の土曜日も顧問先の阪和興業の、名門千葉カントリーでのコンペで、カートに乗らず歩くゴルフを貫徹。スコアは 53、50 と、アウェイにしてはマズマズ。毎日の営業も電車と徒歩。毎週末泳ぐから体強はいいが、この土、日は朝日と日経の 2 紙読んだだけで、いつもの週末の様に図書館で経済誌や総合誌は読めなかった。脳弱状態。

市ヶ谷から池袋に行く有楽町線で黒革の手帳の入ったキャメルのショルダーバッグを提げていないことに気付く。二次会の居酒屋に忘れて来た、引き返そうと思い、発車のベルのなる飯田橋の駅で、地下鉄を慌てて降りる。ドアの閉まった地下鉄の網棚を見上げると、主を失ったカバンが、黒革の手帳と一緒に走り去る！黒革の手帳を又無くしてしまう！三両目の左の網棚にキャメルのショルダーバッグを忘れましてと、急いで改札口へ。沿線の駅に連絡してくれて、しばらく待つ。池袋の駅から発見の朗報。命と財布の次に大事な黒革の手帳をこんなにしよっちゃう忘れるのは、痴呆症の表れか？単なる飲み過ぎか？

🐼のモンゴル紀行Ⅱ（クラブツーリズム、週末気軽にモンゴル、2014.05.02 ~05）

③こうとしか生き様のない人生がある

ウランバートルの東 70 キロのテレルジに向かう。いよいよ草原、遊牧の世界。なだらかな丘陵には果てしなく草原が連なり、山頂近くには落葉松など、濃い緑の寒帯針葉樹林。スキー場にしたいくなるような斜面が連なる。あれがウランバートルで唯一つのスキー場だとガイドのトンガちゃん。ゲレンデらしい左右非対称な曲線の間に、リフトらしい直線。

羊や山羊、牛が群なす放牧風景を期待していたが、疎らにしか目につかない。モンゴルの草原は広く、この時期、草は黄色く、薄く、地面を這うだけ。群がるには無理があるのか？生産性の低い、未だ黄色の草原に遊牧民のテント式住居、ゲルが白く点在。羊や山羊、牛が草を食み、たてがみをなびかせ、白馬が疾駆。澄み切った青い空に白い雲が一つ、二つ。

国立公園内のリクリエーションセンターのゲルの中のレストランで食事。名物の馬乳酒を所望するが、造るのは夏場の7、8、9月とつれない。人参とレタス、マッシュポテトのサラダ。メインは牛と牛肉のミートボールと人参、ジャガイモの塩味のスープ。まずまず。地ビール中瓶5百mlが200円ほど。ジャガイモはよく取れるので、ロシアに輸出するという。元々ジャガイモは南米原産で、マチュピチュからチチカカ湖へ抜ける4千m超の高原でも作られていた。スペイン、ポルトガルからの獐猛な侵略者達が、南米からジャガイモ、トウモロコシ、トマトを持ち帰らなかつたら、世界の食生活は如何だったか？ジャガイモもない、トウモロコシもない時代に、小麦も持たないジンギスとチャガタイ、フビライの蒙古はユウラシアに一大帝国、最初にして最後の？世界帝国を築いた。今でこそ生産性の低いモンゴル草原だが、チーズや干肉、塩漬け、腸詰めに加工された乳や肉はエネルギー効率がよく、生産性が高かったのかも知れないと、遙か昔に想いを馳せる。

食事の後はモンゴルの民族衣装を羽織つての撮影会。次に生まれる時は是非とも女に！数多の男を手玉にとるのだ！との願いを先取り、女の衣装を着るが、しっくり来ない。この分では来世も男か？続いて馬に乗る。サラブレッドと違い短足でずんぐりした、小柄な馬だ。当時は世界最速の乗り物、最強の「戦車」。この短足でヨーロッパまで長駆した訳だ。乗った順番に歩くのかと、二番目に乗ったら動かない。皆乗り終えてからの、団体行動だ。その内お腹が空いたのか、愛馬は首を傾け、頭を地面につけて、地面からほんの少しだけ伸びた草を食べ始める。高所恐怖症患者は体を後ろに反り返らせて、生きた心地がしない。

その日の観光の最後は遊牧民のゲルの見学、幹線道路を外れ、道なき道をバスは走り、ゲルの集落へ。赤銅色の顔に年輪を浮かべたお婆ちゃんが、手を振って迎えてくれる。低く狭いドアから背中を丸めて入る。2本の丸い支柱の間にカマド兼用のストーブ。乾燥した牛糞を手掴みでくべ、その上で牛の乳を温め、お茶を落としてこし、ミルクティーを出してくれる。お茶おきはチーズを乾燥させた各種チーズ菓子。プレーン味、塩味、砂糖味と色々ある。美味しい。これに馬乳酒があればと思うが、今の時期はつくらないと婆ちゃん。岩塩を豊富に産するが、砂糖は輸入品で貴重。降水量が少なく、甜菜も栽培しないようだ。水は近くの泉の湧水を使い、ミルクティーを作った鍋はさきと水で洗って流しの下へ。その水で又、煮炊きするのかと聞くと、家畜に飲ませると、トンガちゃん。勿論お風呂などは入らず、夏場に川や泉で体を吹くだけだと。冬は零下30度、夏は40度近くまで気温が上昇、雪や氷の下の餌を動物に食べさせるのは大変だ。この時期雪が降ると草の成長が遅れ大変だと。緑の地球ネットワークの植樹地、中国山西省大同市では作物の植え付け時の「春の雨は油より貴い」と言われるが、草原に降る雪となると、そうはいかないのか？大雪の冬は家畜に食べさせる草がなくなり、家畜が大量に餓死するなど大変だ。旦那さんが亡くなった20年前から自分で遊牧生活、8人の子供と16人の孫がいるという70過ぎのお婆ちゃん。こうとしか生きられない人生があると。

④遊牧民になるには！？

こうとしか生きようのない人生があると、にっこり笑ったように見えた婆さん。草原での放牧生活では、家族単位で移動、他人と会話することは珍しく、客人は誰でも歓迎される。医者もいないので、病気は薬草で治すと、何種もの薬草を煎じ入れたボールを見せてくれた。そう言えば子供の頃、草刈に山に行くと千振などの薬草を見つけ、持ち帰って乾かし、腹痛や下痢の時に煎じて飲んだ。黄檗の皮は小麦粉と練って、打撲や熱冷ましに使った。婆さんは1人で20頭以上の羊を飼うという。トンガちゃんによれば羊は100匹買っても一匹5千円で50万円、ゲルー戸10万円ということなので、60万円あるとモンゴルで遊牧生活を始められることになるが、遊牧生活を捨てウランバートルなどで暮らす若者も増えているようだ。モンゴル全体の人口増以上にウランバートルの人口が増えている。婆ちゃんによれば近くの炭鉱で働くのはカザフ人が多いという。結婚すると親から自分達のゲルをもらって独立するが、婆さんの子供達も近くに住んでいるのは2人だけで、残りはウランバートルや近くの炭鉱の町で働いている。そういう「都会」暮らしをする者でも、庭にゲルを作ったり、週末には田舎に帰って、ゲルでの生活を楽しむという。

モンゴルの他に中国の内蒙古自治区には600万人のモンゴル人がいて、夏には大挙して外蒙古に押し掛けるという。又、ロシアのバイカル湖周辺のブリヤート自治共和国にも国籍の違ったモンゴル人がいる。モンゴルが独立したのは1921年。24年にモンゴル人民共和国として共和国宣言を行い、以降ソ連の影響下で共産党の一党支配が続いた。1980年代後半には民主化運動が盛んになり、1992年の新憲法により「モンゴル国」となる。同じ民族だから内モンゴルの独立、合併はどうかと水を向けてもピンと来ないようだ。ソ連の影響化にあった時は、チンギス・ハーンはソ連に対する侵略者とされ、民主化後ようやく民族の英雄として再評価され、空港やホテルなどの名前に使われ、あちこちに銅像が建つようになった。これからののかも知れない。

元来た道を帰り、夕食まで時間があるので普通のスーパーマーケットに行きたいというメンバーの希望で、ホテルの近くのスーパーへ。食品スーパーだよとトンガちゃんは言うが、日用品は何でも揃っている。馬乳酒を探すが、やはりない。代わりにミニボトル入りアルヒ（モンゴルウォッカ）を110円ほどで買う。ホテルの夕食の中華料理で、ビールの後に飲むが、40度という度数の割にはとろみがなくあっさりした感じだ。モンゴルでは珍しい川魚の唐揚げのあんかけが出る。美味しい。さすが中華料理。その国の食文化より、己の文化に忠実なのだ！（次号に続く）

◎若者達

11月の3連休最終日は濡れた水泳パンツをカバンに入れ、月島から有楽町線で、永田町の国立劇場へ。三鷹クラブの「国立劇場で歌舞伎を楽しむ会」の4回目、幕の内弁当付き一万円、39人で、伊達藩のお家騒動が題材の通し狂言「伽羅(メイボク)先代萩」を楽しむ。歌手売り出し中のシドニー大学からの東大への交換留学生サラ・オレインと同じ08年入寮、大学院を出て社会人一年目の松澤早紀ちゃんも、嬉しいことに参加してくれる。

前夜はそのサラとBS3チャンネル「NHK日本の歌」で液晶パネル越しに久しぶりに会う。若き🍀が火焰瓶と催涙弾飛び交う闘いの後、スクラム組んで歌ったのとは又違って、澄んだ癒し系の歌声の、懐かしの「若者達」を聴く。オープニングも舞台の左端、歌ったのも一曲だけだったが、東大出の先輩歌手お登紀さんの様に舞台の真ん中に並び、自分の

持ち歌を何曲も歌う日が来るか？先輩を越えて、得意の英語、イタリア語も駆使、世界中にその歌声を楽しんで貰うことが出来るか？楽しみだ。

二枚目のアルバムのプロモーション中のサラが、新アルバム発売記念コンサートを渋谷区文化総合センター大和田で行う。寮の仲間と招待され、天使の歌声を楽しむ。700人収容のさくらホールがほぼ満席。それぞれアルバムを買うが、時間がかかるサインは貰わず、寮友5人、どぜう屋で二次会。一年下、🐟の後の寮委員長で環境庁 No.2 の地球環境審議官を務めた小島君、俺はどじょう嫌いなのとぶつぶつ。一年上の佐久間さん、求められているのは癒し系だし、韓国の癒し系は韓国国内で非難されるので日本に来にくい。サラは大ブレークするのではないかと、興奮気味。音痴で怨歌派、かつて音楽は阿片だと主張、音楽に癒しを求める必要を余り感じない🐟、お登紀さんとのジョイントコンサートするにしても手間暇かけて演出する訳にいかないし、バックバンドを使えば金にかかるし面倒。バイオリンとピアノはサラが得意、お登紀さんはギターが上手い、寮の音楽祭でサラのピアノを弾いた院生の唐津君にも手伝って貰い、カラオケの助けも借りればどうにかなる。エンディングは寮でも良く歌い、お登紀さんも歌う琵琶湖周航の歌や北帰行を皆で大合唱だ！伊藤記念ホールでのコンサートの後、隣のフリースペースでのパーティーをどうするか？不得手な分野で勝手に頭を悩ませ、プロモーター気分。

一晩寝て、伊藤記念ホールに拘らず、ホテルのディナーショーの形でやれば、一年上のパレスホテルの小林会長、4年上の吉川さんが社長、会長をやった同和鉱業関連会社の椿山荘のノウハウと手を借りられる。ホテルでは会費が高くなるようだったら、学士会館に相談しようと、発想を転換、三鷹クラブには全てのソリューションが用意されている！と悦に入るが、お登紀さんの事務所から、来年は歌手活動50周年で忙しいので、二人のジョイントコンサートは難しそうと、残念メール。来年でなくても、いつか実現したい。

「これからのNHK・・・デジタル化と国際化の中で」

・・・東大三鷹クラブ第118回定例懇談会

小野直路さん((株)NHKエンタープライズ特別経営主幹、前NHK副会長)の出身は和歌山県。高校は和歌山県立古座高校。知る人は少ないと思う。多分、開關会参加者である。紀伊半島潮岬の近くの田並という地区の出身である。田並小学校閉校時の記念文集へ小野さんが投稿した文の題名が‘小学校は紀州の日差しに照らされて’である。この中のNHK仙台局勤務時代の飲み会で行われた出身地田舎度コンテストの話が面白い。残念ながらトップではないが準優勝者クラス。給食がないため昼食は自宅に戻りまた学校への小学校生活だったらしい。実は私もより田舎度が高く当然給食のない小学校の出身だが、それでも小野さんがこれほどの田舎出身であったとは知らなかった。そのせいか、一年先輩として昭和41年三鷹寮東寮に小野さんを迎えた時からなんとなく親しみを感じていた。2年生の辰さんと私が登ろう会で山登りを企画したが、辰さんが寮委員長になったため、私一人がリーダーとして、6月の尾瀬、夏休みの伊豆一周の旅行をした。この時の頼りないリーダーぶりがよかったのか、一年下の後輩が優れていたせいか、その後の長い付き合いが始まった。小野さんの最初の赴任地は岡山で、小野夫人、私の女房も出身が岡山。岡山で行われた小野さんの結婚式に合わせ、二人目の出産で里帰りをしていた女房を迎えに行ったのは確か昭和48年11月。式後、女房の実家で結婚式出席の三鷹寮のメンバーと飲んだのも

良い思い出となっている。家族ぐるみの付き合いだが、実は私は小野さんがどのような番組を作ってきたか良く知らない。というのも科学番組に関係してきたらしいが、小野さんと科学になんとなく違和感があったのかもしれない。ただ、小野さんが良い仕事をして信頼され、後輩から慕われているということはわかっていた。ただ、それだけでプロパト
ップの副会長にはなれないだろうから、私の想像以上の仕事上の成果があったのだと確信している。小野さんの仕事の話で覚えているのは、私は何故か右と左をよく間違えるが、英語でも **Right** と **Left** を間違えたと言ったときに、自分もメキシコ？でヘリコプターからの写真撮影時カメラマンに左を指さしながら **Right Right** と叫んでいたと話したことと、もう一つ、放送終了 30 秒前に全てが終わってしまって立ち尽くすアナウンサーの沈黙の 30 秒間、これには凍りついたという経験を聞いたことくらいである。最後にもう一度故郷紀伊に触れると、副会長就任後だったと思うが、NHK 日曜朝放送の自然百景で和歌山の古座川が紹介された。NHK 職員も上司には気を使って知名度ゼロの古座川をやるのかと一種感心しながら観た。さすが、古座川は依然として自然がきちんと残り淡水魚が豊富なすばらしい川であった。このような紀州の日差しに照らされた豊かな自然環境に育ち、かつ登ろう会 OB の小野さんが、NHK という雄大な山を登ってきた。今回はどのような切り口で NHK について話をしてくれるのか興味津々である。皆様こそご参集ください。

(S40 年入寮 全日本空輸 (株) 監査役、元政投銀副総裁 大川澄人)

日 時：平成 27 年 1 月 26 日 (月) 18 時 30 分～21 時 (18 時開場)

場 所：学生会館本館 302 号室 (千代田区神田錦町 3-28 TEL 03-3292-5931)

会 費：5000 円 (会場費、夕食代・飲み物代、通信費など込み)、別途二次会あり。

申込先：平賀・干場 FAX 03-5689-8192 TEL 03-5689-8182

(有) ティエフネットワーク Email : tfn-hoshiba@blue.ocn.ne.jp

◎久しぶり事務所コンパ (結びに代えて)

10 月初めの土曜日夕方、雨について三鷹寮の留学生歓迎会に。いつもほど混んでいないカップ寿司のすし桶差し入れ。留学生が沢山集まり、寮生手作りの 3 種類ほどのカレーとピザ、差し入れの寿司、乾きものを肴に、アルコールが不足気味でも若さで盛り上がり、あちこちに語らいの輪。英語に乗って時間が流れ、語学の不勉強を反省。上手く連絡が取れなかった 1、2 年生の寮委員会のメンバーとも顔合わせ、疎縁を取り返す手掛かり。

翌日メールが入り、25 日に事務所で久しぶりコンパすることに。現役寮生が 6 人だけなので若い OB にも参加を呼び掛ける。08 年入寮で三菱商事の資金部門にいる宮本君と 05 年入寮で、会社勤めを経て IT 関係のベンチャーを立ち上げた岡本君、一年先輩の辰さんの 9 人で事務所コンパ。奄美の大島高校から文 I に現役合格の新田さんは未成年だからと、もう一人の女の子、吉備さんは体質的に酒を飲めないが、50 才の年齢差を越えて談論風発。

出身高校、科類、メアド等記入して貰うが、5 人とも携帯電話番号を書かない。何故？と聞くと、携帯を通話では使わないので、自分の電話番号がわからないという。Line で済ますから、通話しないという。連絡が取りにくいのはこのせいかも知れないが、現役の寮生と OB を繋ぎ、三鷹寮の素敵なネットワークを次代に引き継げると嬉しい！

12 月 6 日 (土) は恒例となった「三鷹市民と東大三鷹寮生の交流の集い」に参加。今回は寮委員会が企画運営する。「自治の学校」としての機能を多少回復出来たのは嬉しい。